

問合せ先

海事局安全基準課 主査 森
代表 03-5253-8111（内線 43-954）
直通 03-5253-8636

平成23年3月14日
国土交通省 海事局 安全基準課

国際海事機関（IMO）第15回無線通信及び搜索救助小委員会の結果について

概要

- ・ GMDSSの見直しに向けた作業計画案を策定。次回会合に向け、作業計画案を引き続き検討予定。
- ・ e-Navigation戦略実施計画の策定に向けて、共通データ構造の構築に向けた検討手法、及びギャップ分析手順の一部修正に合意。

3月7日から11日まで、英国ロンドンの国際海事機関（IMO）本部において、第15回無線通信及び搜索救助小委員会（COMSAR15）が開催されました。

我が国からは国土交通省、総務省、海上保安庁、在英国日本国大使館、（独）海上技術安全研究所その他関係海事機関・団体からなる代表団が出席し、我が国意見の反映に努めました。今次会合における審議結果の概要は以下のとおりです。

1. GMDSSの見直しに向けての検討

約20年前の技術を前提に構築され、これまで大きな見直しがなされていなかったGMDSS（Global Maritime Distress and Safety System：全世界的な海上遭難・安全システム）について、システム全体の維持・安全性向上を目的とする見直しの検討を行うことが、2009年の第86回海上安全委員会（MSC86）において承認され、前回会合より検討が開始されました。

今次会合では、GMDSSの見直しのタイムスケジュール、範囲、手法など、今後の作業計画について審議を行いました。主な審議結果は以下のとおりです。これらは、コレスポнденスグループ¹（CG）において、次回会合までに更なる検討を行う予定です。

（1）タイムスケジュール

以下の2つのタイムスケジュール（案）が作成されました。

a. 計画（Strategy）にかかるタイムスケジュール

次回会合（COMSAR16）から5年をかけて現行GMDSSの見直しの検討を進め、その後10年をかけてGMDSSを近代化（新たなGMDSSの導入）の検討を進める。

¹ 電子メールにて議論を行う通信部会

b. 方策（Tactics）にかかるタイムスケジュール

次回会合から3～5年で、GMDSSの見直しの検討状況を踏まえて、短期的・中期的に実施可能なGMDSSの見直し内容を結論付ける。また長期的な見直し内容（新たなGMDSSの導入）は、次回会合から10～15年で結論付ける。

（2）範囲及び手法

「遭難通信の信頼性確保」、「GMDSS 機器や情報の効率化」、「無線通信のための効果的な周波数の利用」等について見直しを行っていくことに合意しました。また、GMDSSの見直しは、関連業界や各国政府などに大きな影響を与えるため、見直しに係る費用負担と便益のバランスを確保しつつ、検討を行っていくことに合意しました。

2. e-Navigation 戦略実施計画の策定

（1）背景

船舶の航行安全の更なる向上及び船内作業・港湾作業の更なる効率化を目的として、2006年から、既存及び新規の電子航行支援設備等を総合的に活用した次世代の航行支援システム（e-Navigation）の構築に関する検討が進められています。2008年のMSC85において、e-Navigation実現のための骨子として、以下の5つのステップからなるe-Navigation戦略が策定されました。

- a. ユーザーニーズの定義
- b. 基本構成（アーキテクチャ）の定義と解析
- c. 現状との差異（ギャップ）分析
- d. 導入具体計画
- e. 見直し方法

現在は、2012年を目標期限として、当該戦略を実現するための計画（e-Navigation戦略実施計画）の策定作業が、航行安全（NAV）小委員会の調整の下、本小委員会及び訓練当直基準（STW）小委員会で行われています。昨年のNAV56でユーザーニーズの定義が最終化されたことを受けて、NAV56後に設置されたCGでは、システムの基本構成、ギャップ分析（ユーザーニーズと現状設備機器の能力との差を小さくする手法の分析）等の更なる検討が行われています。

（2）今次会合の審議結果

今次会合では、システムの基本構成及びギャップ分析について、無線通信及び捜索・救助の観点から本小委員会がNAV小委員会に対して適切な助言を行うため、CGの検討結果を基に審議を行いました。

審議の結果、小委員会は、e-Navigation上におけるデータ交換及び情報サービスの共通データ構造の構築に向けて、国際水路機関（IHO）が開発したS-100モデルを基に、IMOとIHOが合同で設置する作業部会でシステムの基本構成を検討していくことを、本年6月に開催されるNAV57に提案することとしました。

また、ギャップ分析に関して、CGが行ったギャップ分析の進捗を概ね支持した上で、今後は、ギャップ分析で浮き彫りにされたギャップを、e-Navigationの技術又は運用によって如何に埋めていくかを明確化する作業を進めることをNAV57に提案することとしました。

e-Navigation戦略実施計画の策定については、2012年の目標期限に向けて、CG及び今次会合の審議結果を含め、NAV57において更に審議される予定です。

以上